

しもおく議員 本会議で一般質問



しもおく議員は9月29日の本会議一般質問で、ヒバクシャ国際署名、カジノを含む統合型リゾート施設(IR)、中小河川の局地的豪雨対策、豊橋で起きた竜巻の被災者生活再建支援、県独自の給付型奨学金制度・返済支援制度の創設等について質問しました。

★ヒバクシャ国際署名★

ヒバクシャ国際署名については、「全国16の県知事含め865市町村長が署名している。大村知事もぜひ賛同して署名を」と訴えましたが、県当局は「国の考え方がある。慎重な対応が必要」と、2月議会にわしの議員が行った質問への答弁と同じ内容に終始しました。この間、核兵器を違法化する核兵器禁止条約が、国連加盟国193カ国の約3分の2の122カ国の賛成で採択されたにも関わらず、世界の流れに逆行する態度です。

★IRについて★

IRについては、「カジノの導入という重大問題について、県の進め方は、あまりに拙速、無責任な政治姿勢、行政姿勢だ」と追及しました。県当局は「カジノの収益は地域に還元される。依存症対策は国でやられる」という無責任なものでした。

★中小河川の局地的豪雨対策★

中小河川の局地的豪雨対策については、「河川課の予算は平成5年から年々減少している。中小河川の堤防の嵩上げや遊水機能の強化等根本的に拡充すべきだ、県の管理する約300河川のうち氾濫危険水位の設定河川が28河川、水位計の設置は91ヵ所、監視カメラ設置が22河川。氾濫危険水位の設定や水位計・監視カメラの増設をすべきだ」と訴えました。県当局は「河床の掘削、堤防の嵩上げや耐震化を緊急性の高いところから進めていく。水位計や監視カメラの増設は検討していく」と答弁しました。他県に比べて遅れているタイムライン(防災行動計画)については策定していくと答弁しました。

★竜巻の被災者生活再建支援★

8月7日に豊橋で起きた竜巻の被災者生活再建支援について、「県としての支援を手厚く充実させていく必要がある。県独自の被災者生活再建支援制度をつくるべきだ」と質しました。県当局は「市町村とも相談して検討していく」と答えました。

★給付型奨学金制度・返済支援制度★

給付型奨学金制度・返済支援制度については、「若者がお金の心配なく学べる環境をつくる県独自の給付型奨学金制度、返済支援制度をつくるべきだ。返済で困ったときの相談窓口などサポート体制もつくるべきだ」と追及しました。県当局は「給付型奨学金は知事会として国に要望している。返済等については学生支援機構や大学等がサポートしている」と県の独自施策について消極的な答弁に終始しました。

